

北海道委託事業  
緊急雇用創出推進事業  
キャリア教育受託ビジネスモデル構築事業  
キャリア教育ビジネスモデルの手引き

平成 24 年 2 月

北海道経済部労働局雇用労政課  
事業受託者 特定非営利活動法人教育プラットフォーム北海道

北海道委託事業 緊急雇用創出推進事業  
キャリア教育受託ビジネスモデル構築事業  
キャリア教育ビジネスモデルの手引き

はじめに	2
1. キャリア教育ビジネスモデル構築事業の事業内容	3
(1) 事業計画	3
(2) 実施内容	5
2. キャリア教育ビジネスモデルの構成	10
(1) キャリア教育コーディネーターの必須業務	10
① キャリア教育コーディネート実施にかかる準備	10
② キャリア教育コーディネート実施時	12
③ キャリア教育コーディネート終了後のアフターケア	12
(2) キャリア教育コーディネーターの作業量及び内容分析	17
① キャリア教育コーディネーターの歩掛	17
② コーディネーター歩掛の省力化に向けた方策	18
③ コーディネーター平均歩掛と学校側のキャリア教育予算	19
④ 受託可能なキャリア教育コーディネートの基本プログラム案	23
⑤ 受託方法の多様化について	24
(3) 基本プログラムの構築	25
① 基本プログラムの考え方	25
② 基本プログラム案	25
③ 基本プログラム実施事例	34
④ 基本プログラムに関するヒアリングアンケートの概要	37
資料編	
1. ワークシート集	40
2. 授業実施資料	55

## はじめに

特定非営利活動法人  
教育プラットフォーム北海道  
理事長 木下 修

平成 21 年より 3 年間、北海道経済部より受託させていただいたキャリア教育ビジネスモデル構築事業も最終年度となり、今回、キャリア教育ビジネスモデルの手引きの作成にあたり、当方の 3 年間の経験を基本プログラムとしてまとめさせていただきました。

キャリア教育コーディネートに関する事業の多くは行政の委託事業か、多くのボランティアに依存してきた現状のなか、キャリア教育コーディネートにはどれだけの労力とコストがかかるのかが不明朗であり、今後、キャリア教育コーディネーターが介在するキャリア教育普及の足かせとなっていました。今回の調査でキャリア教育にかかるコスト面の検証や実際にコーディネーターが行う業務内容の解析を行う試みは全国的に見ても先駆的と言えるものであり、次年度以降、北海道内におけるキャリア教育の自律的な実施において無くてはならない重要なデータとなることを確信しております。

最後に、手引きの作成においてご意見を戴きました北海道経済部雇用労政課の皆様をはじめ、北海道キャリア教育連絡協議会にご協力いただいております関係諸団体の皆様にご場を借りて御礼申し上げます。

平成 24 年 2 月吉日

## 1. キャリア教育ビジネスモデル構築事業の事業内容

### (1) 事業計画

#### i. 事業の目的

本事業の目的は以下の通りである。

外部人材であるキャリア教育コーディネーターを活用し、学校と地域産業界が一体となったキャリア教育支援の仕組みを構築するため、平成 17 年度より経済産業省が中心となり、キャリア教育コーディネーターによるキャリア教育が実施されてきました。これを受け、道内においてキャリア教育コーディネーターを活用したキャリア教育を実施し、さらなるキャリア教育の促進を図るため、道内各地の学校で実証を行い、地域産業の異なる様々な地域で活用可能なキャリア教育コーディネーターによるキャリア教育モデルを提案し、新たな教育産業のシーズとなることを目指す。

#### ii. 事業内容

##### ① キャリア教育コーディネーターを活用したキャリア教育実施モデルの作成

中学・高校生の基礎的・汎用能力等の形成を通じた職業感・勤労観の自己形成を促すため、道内各地で、様々な規模の学校や学年でキャリア教育コーディネーターによるキャリア教育授業の実証を行い、地域産業理解の視点を踏まえ、産業特性の異なる道内全域で実施可能な汎用性の高いプログラムを作成する。また、各プログラムでは、キャリア教育コーディネーターの役割を先生や講師（企業）など他の関係者の役割を踏まえて明示し、実施に必要な最小限のコーディネーター作業量をコスト計算可能な形で提案する。

##### ② キャリア教育コーディネーターを活用したキャリア教育実施モデルの普及

実証を通じてキャリア教育コーディネーターの認知度向上を図るとともに、教育関係者やキャリア教育に関心のある企業・団体等を対象としたフォーラムを開催し、本モデルを周知する。またホームページなどに掲載誌広く周知する。

##### ③ 地域での実施主体の構築支援

学校などの教育関係機関や地域社会・産業界など関係諸機関との連携を深め、キャリア教育が地域において持続可能な形でキャリア教育を推進するため、キャリア教育コーディネーターによるキャリア教育実施主体となる地域連携プラットフォーム構築および運営基盤の整備を支援する。

#### iii. 本事業で期待される効果

本事業により、次の効果が期待されます。

- ① キャリア教育実施に伴う学校の負担軽減。産業界等とのつながりを活かした幅広いプログラムの実施が可能となり、地域、学年による異なる学校ニーズに柔軟に対応
- ② 企業へのフォローアップによる企業の負担軽減。キャリア教育受入企業の増加。
- ③ キャリア教育コーディネーターへの認知度が高まり、コーディネーターを活用し

たキャリア教育実施数が増加。

- ④企業、団体等によるキャリア教育受託事業への参入促進。
- ⑤地域でのキャリア教育推進体制構築に向けた動きの促進。
- ⑥キャリア教育コーディネーターによる学校・地域社会・産業界など関係機関の連携体制の構築。

(2) 実施内容

i. 平成21年度

①キャリア教育コーディネーターによるキャリア教育の実証について

振興局 総合振興局 (市町村)	実施校	期間	学年	クラス 数	人数	時数	内容	関連産業
石狩 札幌市 恵庭市	恵庭市立恵明中学校	11月6日	3	4	148名	4	ガイダンス、企業人講話(ラウンドセッション)	多業種
	札幌市立厚別中学校	11月26日	3	5	164名	12	ガイダンス、アンケート、調べ学習、進路講話、ライフプラン作り、まとめ	サービス、製造
	第一高等学院	11月13日	全学年	1	20名	2	講演	サービス
	北海道札幌南高等学校	12月15日、12月17日	全学年	3	107名	4	企業人講話、製作体験、まとめ	流通、食品
	札幌市立美香保中学校	10月中旬～12月下旬	2	3	120名	15	ガイダンス、職種について、社会人マナー研修、事前学習、職場体験、礼状作成、プレゼンテーションほか	サービス、IT、製造
後志 二セコ町 余市町 仁木町	北海道二セコ高等学校	11月27日	1、2	2	37名、36名	2、2	ワークシート、企業人講話	観光、サービス
	北海道余市高等学校	12月7日	全学年	3	101名	2	講演会	サービス
	仁木町立仁木中学校	10月中旬～11月下旬	3	1	26名	15	社会人マナー研修、体験先への電話、事前学習、職場体験、礼状作成、プレゼンテーション講習ほか	多業種
渡島 函館市	北海道立函館西高等学校	10月下旬～11月上旬、1月18日	1、3	5、5	200名、200名	6、2	講演会、ガイダンス、製作体験、評価・プレゼン、総評ほか	観光・食品・水産・デザイン工業、サービス
	函館市立潮見中学校	10月16日	1	1	35名	1	模擬面接	サービス
胆振 苫小牧市 登別市	北海道苫小牧総合経済高等学校	12月～2月	2	4	160名	13	ガイダンス、社会人マナー研修、企業人講話、振り返り、見学事前学習、企業上級学校見学ほか	IT、流通
	北海道登別明日中等教育学校	11月20日、12月1日、12月7日	4	2	80名	4	名刺・キャッチフレーズ、製作体験、名刺作り	情報
十勝 帯広市	帯広市立帯広第八中学校	7月～12月	2	5	200名	31	ガイダンス、調べ学習、企業人講話、職業全般を知る、社会人マナー研修、職場体験、講演、パワーポイント講習、プレゼンテーションほか	農業・工業・食品・サービス

上記の他、平成21年度は下記の事業を行った。

②北海道キャリア教育推進協議会について

- ・第一回 平成21年11月26日 事業の途中経過と今後の予定について
- ・第二回 平成22年 3月19日 事業結果の報告について
- ・行政、産業、PTAなど各団体にキャリア教育の意義は理解され、北海道レベルではひとつの足場は築かれた。

- ・キャリア教育に関する実践的・理論的・普遍的なスキームの確立に向けて基盤を整備することの課題を得ることができた。

### ③キャリア教育に係る広報事業

- ・ブログによる公表は、実施校ごとに順次実施内容を掲載、配信した。また、汎用化したプログラムは、そのコーナーを設けてわかりやすく、どの地域でも行えるような書式をつくり配信した。

- ・パンフ・リーフレットによる広報

実施校の内容の概略を載せたパンフレットを学校、行政団体、企業および関係者に約300部配付することにより、本事業の趣旨、目的、理念の普及に役立った。渡島管内の「中学校進路研究大会」では100部配付することが可能になった。

### ④キャリア教育に係る調査等

実施目的：北海道でのキャリア教育がよりスムーズに展開されるための課題を知り、それを解決するための方法を探るために実施。

実施方法：中学（キャリアスタートウィーク実施校）238校

高校304校

回答数は295校で、回答率は約54%

調査内容：勤労観・職業観の育成に関する教育について

キャリア教育の実施手法について

キャリア教育予算及びコーディネーターについてなど

#### 調査結果概要

- ・キャリア教育への期待が高く、職場体験は回答を寄せた中学、高校職業科では100%、普通科でも90%以上が実施されている。
- ・キャリア教育の推進にあたっては、校内協力体制、地域・外部機関の協力体制の確立が大きな課題。また、学校全体の教育計画や目標の中にどう位置づけるかも大きな関心となっている。
- ・継続的なキャリア教育の実施のためには、企業や外部団体との連携、キャリア教育内容の意義の深化についての困難性も推察できた。
- ・キャリア教育予算については、学校の自助的工夫により配当予算内で実施されており、キャリア教育のさらなる展開のためには課題となることが考えられる。
- ・結果については、関係団体、行政、教育局、主たる市町村教育委員会に配付した。

## ii. 平成22年度

### ①キャリア教育コーディネーターによるキャリア教育の実証について

振興局 総合振興局 (市町村)	実施校	期間	学 年	ク ラ ス	人 数	時 数	内 容	関 連 産 業
石狩 札幌市 北広島市 恵庭市	札幌市立青葉中学校	8月5日～ 11月5日	2	3	86名	9	企業人講話(IT 産業)、職場体験	IT.サービス、観光 福祉、環境、医療
	北広島市立大曲中学校 1年	6月28日	1	5	168名	2	企業人講話(ク ラスローテーション 形式)	農業、医療、福祉
	北広島大曲中学校 3年	7月14日、16 日、8月26日	3	5	200名	5	事前学習、企業 人講話	サービス
	札幌市立南が丘中学校	11月9日、26 日	2	3	117名	2	企業人講話、社 会人マナー研修	サービス 観光
	恵庭市立恵明中学校	10月20日	3	5	86名	2	企業人講話	農業
後志 仁木町	仁木町立中学校	5月13日 9月14日	2, 3	1, 1	44名	3	職場見学、イン タビュー学習、 経済の話	金融、サービス、 食品加工、行政
上川 上川町	北海道上川高等学校	8月24日、31 日	2	2	63名	7	企業人講話、職 場見学	福祉、サービス 観光
オホーツク 雄武町	北海道雄武高等学校	12月16日 2月12日	1	2	45名	6	職場体験、ガイ ダンス、模擬面 接	医療、行政、漁業、 農業、サービス、 福祉、金融
胆振 厚真町 室蘭市	北海道厚真高等学校	10月19日 22日、26日	1	1	38名	11	企業人講話、職 場見学	自動車、環境
	室蘭市立向陽中学校	6月～2011 年2月	2	4	136名	35	職場体験、企業 人講話、社会人 マナー研修、礼 状作成、パワー ポイント研修、ほ か	漁業、食品加工 観光、流通
渡島 函館市 南茅部町	北海道函館西高等学校 3年	12月21日	3	5	193名	2	メンタルレー ニング講座	
	北海道函館西高等学校 1年	1月27日	1	5	202名	2	社会人マナー研 修	
	北海道函館中部高等学 校	10月14日、 27日、28日、 11月4日	1	6	238名	6	企業人講話、討 論会、講演	観光
	南茅部高等学校	9月28日 10月27日	1	1	29名	8	社会人マナー研 修、職場・学校見 学	漁業
空知 滝川市	滝川市立開西中学校	9月13日	2, 3	2,2	77名 78名	2	社会人マナー研 修	食品、サービス

上記の他、平成22年度は下記の事業を行った。

②北海道キャリア教育推進協議会について

- ・第一回 平成22年 7月26日 事業計画について
- ・第二回 平成22年11月10日 事業の途中経過とキャリア教育サポート  
ガイドに関して
- ・第三回 平成23年 3月15日 事業結果について
- ・昨年度に続き3回にわたるキャリア教育推進協議会の開催により、行政、産業、  
PTAなど各団体と連携した北海道におけるキャリア教育の自立的な推進をサ  
ポートする基盤が作られた。
- ・今年度の成果品の一つである「キャリア教育サポートガイド」にあたっては3  
回にわたるキャリア教育推進協議会の開催により、行政、産業、PTAなど各  
団体と協議を重ね作成することができた。

③地域プラットフォーム構築事業

- ・帯広地区では、計3回(地域コーディネーター研修会を2回～平成22年9月



9日、12月10日、事業成果報告会を1回～平成23年2月23日)実施した。もともと「地域全体で子どもを育て見守る」意識の強い地域ではあるが、この3回に渡る事業でより参加者のキャリア教育に対する意識が高まり、今後学校支援ネットワークが広がっていくためのきっかけ作りをすることができたように思われる。

- ・函館地区(平成23年1月7日実施)では大学連携事業ということで、社会人だけではなく現役の大学生や大学院生にもキャリア教育を伝えることができた。函館教育大学では当NPOがプログラムを実施してきた函館地区の学校等で新たなコーディネーターが活動していく予定であることから、一つのプラットフォームの基盤が構築できたと捉えることができる。

#### ④キャリア教育に係る広報事業

- ・ブログによる公表は、実施校ごとに順次実施内容を掲載、配信した。

#### ⑤キャリア教育サポートガイドの発刊

- ・今年度実施したプログラムの事例紹介を産業別に記載し、またその取り組みから学校のニーズと産業・地域のニーズを有機的に関連させた汎用化プログラムを作成した。
- ・実証校の他、23年度新規実証予定校の教員に配布した。

#### ⑥キャリア教育に係る企業CSRの調査

調査目的:「教育CSR」への参加を北海道で前向きに考えている企業を把握し、連携を模索する。

実施対象:日本財団が運営するホームページCANPANCSRプラスにおいてCSR活動の評価の点数が高い上位142社の企業

調査形式:郵送アンケートによる選択・記述方式

実施時期:2011年1月～2月

調査内容:CSRの実施体制について

CSR取り組み内容について

CSRのアウトソーシングについて

調査結果概要:

- ・回収率は16.9%と、アンケート調査としては高くはなかった。
- ・調査結果から、企業がCSR活動の中で「環境」の次に「教育」を重要視しており、学校と関わりをもつ企業も少なくないことから、企業のキャリア教育への参加も後ろ向きではないことがわかる。
- ・回収できた23社中3社が教育CSRを北海道にアウトソーシングすることに対して、「条件によっては検討したい」ということから、今後ビジネスモデル構築の資金需要を確保するためにも企業との連携を深めていく必要がある。

iii. 平成23年度

①キャリア教育コーディネーターによるキャリア教育の実証について

振興局 総合振興局 (市町村)	実施校	期間	学年	クラス 数	人数	時数	内容	関連産業
石狩 札幌市	札幌市立青葉中学校	6月17日、23日、9月2日、8日	2	2	71名	10	企業人講話、職場体験、社会人マナー研修	IT、サービス、流通 福祉、食育・園芸、 保育、マスコミ、行政
	札幌市立八軒中学校	8月26日 10月12日	2	5	197名	6	社会人マナー研修、職場体験	食品
	札幌市立平岡緑中学校	10月12日、14日	3	4	157名	2	社会人マナー研修、企業人講話	製造、販売
	札幌市立厚別中学校	10月3日、11月2日、9日	2	4	143名	8	社会人マナー研修、企業人講話、職場体験	サービス、IT、流通、 医療、行政、教育、行政、 保育、マスコミ
宗谷 猿払村 浜頓別町	猿払村拓心中学校	8月26日、11月8日	2	1	32名	2	社会人マナー研修、企業人講話	福祉、食品
	北海道浜頓別高等学校	10月13日、25日	3	2	54名	4	模擬面接	行政
上川 上川町 深川市	北海道上川高等学校	9月20日、27日	2	2	67名	3	企業人講話、農業体験	農業
	深川市立音江中学校	9月21日、10月4日、11日	2	1	29名	8	社会人マナー研修、職場体験、企業人講話	建築、観光、流通、食品、 医療
檜山 江差町	北海道江差高等学校	11月11日	2	3	112名	1	社会人マナー研修	特になし
釧路 白糠町	北海道白糠高等学校	10月19日	1	3	107名	2	社会人マナー研修、進路講話	特になし

上記の他、平成23年度は下記の事業を行った。

②北海道キャリア教育推進協議会について

- ・第一回 平成23年7月26日 事業計画について
- ・第二回 平成24年1月25日 基本プログラムについて等
- ・昨年度に続き2回にわたるキャリア教育推進協議会の開催により、行政、産業、PTAなど各団体と連携した北海道におけるキャリア教育の自立的な推進をサポートする基盤が作られた。
- ・基本プログラムの構築に対し、各団体の立場で様々なご意見を頂くことができた。

③キャリア教育に係る広報事業

- ・ブログによる公表は、実施校ごとに順次実施内容を掲載、配信した。
- ・生徒向け・企業リーフレットによる広報により、生徒・協力企業のキャリア教育の取り組みが容易になった。

④基本プログラムの策定

- ・3年間の委託事業で道内各地で行なった、キャリア教育プログラムを標準化し、今後のキャリア教育コーディネーターの行動基準・報酬基準として体系づけした基本プログラムの策定を行った。

## 2. キャリア教育ビジネスモデルの構成

### (1) キャリア教育コーディネーターの必須業務

本事業において3年間、キャリア教育コーディネーターがコーディネートを行うキャリア教育の授業を北海道内の高校・中学校で行なってきた。本項においては、その代表的なコーディネート事例とそれに伴うキャリア教育コーディネーターの実務について記し、基本的かつ標準的なキャリア教育とし、以下のキャリア教育コーディネーターの作業量の項でキャリア教育コーディネートに掛るコーディネーターの歩掛について考察する。

キャリア教育の授業実施に係るコーディネート業務として、キャリア教育コーディネーターは以下の業務を主に行う。

- ① キャリア教育コーディネート実施にかかる準備
  - i. キャリア教育プログラムの提案
  - ii. 社会人講師・協力企業のコーディネート・連絡調整
  - iii. 教材・ワークシートの提供
  
- ② キャリア教育コーディネート実施時
  - i. 授業当日の使用する教材や使用機材の準備・最終確認
  - ii. 授業のファシリテート
  - iii. 授業の後片付け
  
- ③ キャリア教育コーディネート終了後のアフターケア
  - i. 事後授業のファシリテート
  - ii. 効果測定の実施

### ① キャリア教育コーディネート実施にかかる準備

#### i. キャリア教育プログラムの提案

キャリア教育の実施に際してコーディネーターは学校の意向をヒアリングした上で、その授業の目的や狙いに沿ったプログラムを提供しなければならない。

留意点として

1. 学校教育計画との整合性が図れるように、確認を取ること。
2. プログラムの実施に際しては、学校公開日に合わせたり、研究授業とする場合もあるので日程の調整を慎重に行う。
3. 全体計画を立てる際には、授業時間数があらかじめ決まっていることが多い

ので、時間内に収まるプログラムを提案する。

4. 講師・協力企業の選定－授業の日程及び交通費や謝金の予算に合わせ授業の目的に沿った講師や協力企業に依頼を行う。
5. キャリア教育の体験学習を単に「楽しい体験」に終わらせないために体験や講話の事前事後で授業時数を確保できているかをチェックする。
6. 効果測定方法を事前に設定する。

上記の留意事項を考慮し、学校側とも相互にチェックするためにキャリア教育全体計画書を作成して交付する。

キャリア教育プログラムのプログラム計画書 (例)

平成〇年度 〇〇市立〇〇〇学校〇学年〇組 キャリア教育授業プログラム

学年担当教員 先生 担当者

全体目標

本時の目標

授業の全体計画

時間	教員、児童・生徒等の動き	企業等協力者の動き	留意点
導入 分			
展開 分			
まとめ 分			

教員と話をしながらまとめましょう。

## ii. 社会人講師・協力企業のコーディネーター・連絡調整

授業のプログラムを提案し、日程が固まったところで、コーディネーターは社会人講師や協力企業に具体的な授業内容の依頼を行う。

ここでの留意点として

1. 初めて地域の方や協力企業の方が講師をされる場合、事前に打ち合わせがないと授業の目的に沿った講話とならない場合がある。事前に授業の目的を講師や協力企業に適切に伝える必要がある。
2. 体験や講話などを初めて行う講師や協力企業には、授業時間内でのアクティビティ(例：パソコンの利用や各種教材の活用)をコーディネーターも一緒に考

える。

3. 授業前日の確認や授業後の挨拶などは確実に行う。

### iii. 教材・ワークシートの提供

講話や体験型の授業では、生徒が受け手側に立つ一方になることを避け、事前に授業の内容を自発的に調べられるよう、コーディネーターはワークシートを用意することが望ましい。

その際の留意点としては

1. 汎用的なワークシートが望ましいが授業の流れに沿った運用を行う。
2. 授業事後で読むだけの教材よりは授業の進行に合わせて、書き込みながら進めるワークシートの活用が望ましい。
3. ワークシートはわかりやすく、学びの振り返りに活用できる視点から作成する。

※ 巻末の資料に社会人講師型授業と体験型授業のワークシートを掲載した。

## ②キャリア教育コーディネート実施時

### i. 授業当日の使用する教材や使用機材の準備・最終確認

コーディネーターは授業当日、講師や協力企業より早く学校に到着し、学校側との事前の打ち合わせで当日の授業の流れを最終確認しておく。プロジェクタやパソコンなどの機材のセットは授業前にセッティングを終わらせていくことが最低限必要である。

### ii. 授業のファシリテート

コーディネーターは授業の始まりから授業の司会を務め、生徒に対して講師の紹介や今日の授業の目的などを話した上で、講話や体験の後に生徒に質疑を促すなどファシリテーターとして活動を行うのが望ましい。

### iii. 授業の後片付け

コーディネーターは授業後の使用機材の片付けはもちろんのこと、講師や協力企業への御礼や交通費・謝金がある場合の支払いの手続きに至るまで責任をもって業務を行う。

## ③キャリア教育コーディネート終了後のアフターケア

### i. 事後授業のファシリテート

体験や講話が終わってしまうと、事後の授業の計画が疎かになる傾向があるので、グループ毎のプレゼンテーションや発表会の実施、感想文の記入などの授業を計画し、コーディネーターは授業目的に沿ったファシリテートを行う。

### ii. 効果測定の実施

体験や講話の授業では授業効果を定量的に測定することが難しい、そのためコーディネーターは授業の前に生徒に対するアンケート調査を行い、事後においても同様のアンケートを採ることによって、生徒の変容や授業の効果を測定することが可能となる。ほかにも授業効果を計る手法（下記参照）はあるので、それら

の手法の採用に関しては学校とも協議の上で行う。コーディネーターはアンケートの集計と解析を行い、結果のレポートは必ず学校にフィードバックする。

#### 参考

##### 効果測定の方法

- 授業観察記録を活用した「カンファレンス」  
コーディネーターが授業の観察記録を取り、それを基に授業に関わった以外で複数の人間によりカンファレンスを開催し、授業記録を読み込み、学習プログラムが機能していたか、何を改善すべきなのかを考察していく手法。
  
- 学習成果を蓄積する「ポートフォリオ」  
児童生徒各自の毎時間の学習記録をファイルしていくことで、一人ひとりの学びの過程を可視化したとることができる。
  
- 定量的な評価「アンケート調査」  
定量分析のために授業の事前と事後に行い、生徒の意識の変化を客観的に捉えることができる。また生徒だけではなく、教員や協力企業などにもアンケートを行うと次の授業やプログラムの開発に役立つ。
  
- 絶対評価の評価指針「ルーブリック」  
目標準拠評価の導入により、従来主観的であった思考・表現力を客観的に評価できるようにしたもので、到達尺度とその内容を記述する指標から成り立っている評価指針である。

様式 A

### キャリア教育（「生きる」とは？「働く」とは？）についての意識調査

**調査ご協力をお願い**

この調査は、記入していただいた後、すぐにコンピュータに入れ、統計的に処理しますので、だれが何を答えたかがだれかに知られるようなことは決してありません。テストではありませんので、ありのまま、思うままをお答えください。

**Q** はじめに、あなたの学年・クラス・性別をお答えください。学年・性別について、あてはまるものどれか一つに必ず○をつけてください。クラスについては、何組かを記入してください。

[学年]	中学校	1年	2年	3年	[クラス]	組	[性別]	男	女
------	-----	----	----	----	-------	---	------	---	---

**Q** あなたは、キャリア教育の授業や活動の中で、①～⑪のようなことがらに印象に残っていると思いますか、それぞれについて1～5のあてはまる番号一つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく 思わない
①人から「ありがとう」と感謝されたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
②人からはげまされたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
③人から注意されたこと・怒られたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
④人からやさしい言葉をかけてもらったことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑤ふだん話していない大人と会話をしたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑥友達と協力して活動したことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑦つらくてもがんばったことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑧やりとげたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑨失敗したことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑩自分ひとりでできたことが印象に残っている	1	2	3	4	5
⑪大人の話に感動したことが印象に残っている	1	2	3	4	5

**Q** あなたはキャリア教育の授業や活動の中で、①～⑫のような気持ちや感じたことはあったと思いますか、それぞれについて1～5のあてはまる番号一つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく 思わない
①おもしろいと思った	1	2	3	4	5
②楽しいと思った	1	2	3	4	5
③うれしいと思った	1	2	3	4	5
④驚きを感じた	1	2	3	4	5
⑤いやだと思った	1	2	3	4	5
⑥たいへんだと思った	1	2	3	4	5
⑦新鮮さを感じた	1	2	3	4	5
⑧あこがれをもった	1	2	3	4	5
⑨ショックを感じた	1	2	3	4	5
⑩つらいと思った	1	2	3	4	5
⑪つまらないと思った	1	2	3	4	5
⑫不思議だと思った	1	2	3	4	5

Q3 あなたはキャリア教育の授業や活動を通して、「仕事」「働くこと」について、①～⑯の質問項目に対してどのように思いますか。それぞれについて1～5のあてはまる番号一つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく 思わない
①仕事は楽しいものだ	1	2	3	4	5
②仕事は苦しいものだ	1	2	3	4	5
③仕事は面白いものだ	1	2	3	4	5
④仕事は難しいものだ	1	2	3	4	5
⑤仕事はやりがいのあるものだ	1	2	3	4	5
⑥仕事はつまらないものだ	1	2	3	4	5
⑦仕事はお金を得るためにするものだ	1	2	3	4	5
⑧仕事をするのは当たり前(義務)だ	1	2	3	4	5
⑨やりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい	1	2	3	4	5
⑩社会に出て仕事をしていないとはずかしい	1	2	3	4	5
⑪学校で勉強するより仕事をする方が大変だ	1	2	3	4	5
⑫努力して一人前に仕事ができる人になりたい	1	2	3	4	5
⑬自分で会社をつくらったり、お店を開いたりしたい	1	2	3	4	5

Q4 あなたはキャリア教育の授業や活動を通して、「社会(よのなか)」についてどのように思いましたか。それぞれについて1～5のあてはまる番号一つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく 思わない
①社会には様々な個性をもった人がいるとわかった	1	2	3	4	5
②社会にはたくさんの職業があると感じた	1	2	3	4	5
③社会の仕組みやニュースに興味をもった	1	2	3	4	5
④社会には仕事以外にも様々な活動(ボランティアなど)や地域の取り組みがあると知った	1	2	3	4	5
⑤家の人の仕事や、社会にあるなるべくたくさんの職業について知りたいと思った	1	2	3	4	5
⑥大人は何のために働くかを考えるようになった	1	2	3	4	5
⑦いま住んでいる地域の歴史的な場所や物・伝統的な産業に興味を持った	1	2	3	4	5
⑧地域の大人ともっと話したいと思った	1	2	3	4	5



Q5 あなたはキャリア教育の授業や活動を通して、①～⑦のそれぞれの質問項目についてどのように感じますか。それぞれについて1～5のあてはまる番号一つに○をつけてください。

とても  
そう思う

まあ  
そう思う

どちらとも  
思えない

あまり  
そう思わない

まったく  
思わない

- ①「他者」(友だち・家族・まわりの大人)の気持ちが  
より深くわかるようになったと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ②「自分が社会にでたら必要とされる力」が何か、  
わかったと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ③心掛けてするようになったことや自分から  
進んでやるようになったことが増えたと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ④「学校での学習と社会(よのなか)とのつながり」が  
わかってきたと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ⑤「自分らしさ」(自分の好き・嫌い・得意・苦手・向き・  
不向きなど)がよりわかるようになったと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ⑥自分の将来の夢・目標やつきたい仕事について、  
「友だち」と話すことが増えたと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ⑦自分の将来の夢・目標やつきたい仕事について、  
「家族」と話すことが増えたと思う ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。